

「子どもたちに寄り添う」を形に

毎週木曜の放課後に仮設住宅でキッズケ家

いつもお祈りとご支援感謝致します。大船渡市釜石市は春を迎えて、若葉が萌え、とても美しい季節になっています。東北の新緑は美しいよく耳にしますが、本当にそう思います。山の緑の色は、7~8種類ある気がします。ぜひ春に東北に来られることがあれば、山を見て下さい。

さて、私が岩手に引っ越してから1年半が経ちました。その当初からやっているキッズケ家(子ども向けのイベント)をこの5月から毎週木曜日の放課後、小学校が早く終わる日に合わせて仮設住宅の談話室で行っています。今までは土日祝日に月1~2回行っていましたが、「もっとキッズケ家をやってほしい」という子どもたちの要望や、1ヶ月に1回という頻度で作れる子ども達との関係の限界を感じていたので、毎週子ども達と会い私が3.11の日から祈っていた「子どもたちに寄り添う」とい

←岩手山と小岩井農場



う岩手に引っ越した目的の一つを、これで形にすることが出来て感謝です。この放課後に行うキッズケ家では、従来の私たちが考えた企画を提供し子ども達が参加するというやり方から、子ども達と共に考えていくやり方へと変更しました。これはキッズケ家だけに必要なことではなく、これからの被災地支援のあり方にも適応できることだと思います。震災から2年経ち、今は地元の方からも「いつまでも支援されるだけではなく、自立していくことが必要だ」という言葉が聞こえて来る時期になっていてます。そんな中、「共に創りあげていく」という考え方が、支援者として来た者に必要だと私は考えています。その考えの元に、放課後のキッズケ家では子ども達から出てきたアイデアである「お菓子づくり」や「ポケットティッシュケース作り」などを行いました。また、それだけでなく「子ども達の話ゆっくり聴く」ことを目的とした「1on1」というものも、新たに取り入れています。岩手での活動を始めて、1年半の間子ども達のほうから津波や地震に対するトラウマなどの話を聞くことはほとんどありませんでした。しかし、彼らは他県の子ども達と同様に日々様々なストレスを感じています。学校のことや、友達のことや悩んでいる彼らと一緒に遊び、ゆっくり話を聴くことは、カウンセラーでもない普通の私に出来、彼らの必要にも応えることではないかと考えています。これからも、祈りながら小さい事ですが続けていけたらと考えています。

写真と見る2013年上半期の活動報告

2013年ももう半年が過ぎようとしています。私個人の見解では、震災から2年経った今年、被災地の雰囲気や支援の形も、2011年のいわゆる緊急時の支援活動から大きく変わってきているので、今回情報を更新したいと思います。正直、私はあまりテレビ等の東日本大震災に関する報道を目にする機会がないのですが、被災地に住んで活動する者として“生”の情報を一部分にしかならないと思いますが、お伝え出来ればと思います。

釜石市での活動 この半年間で、釜石市での私の活動は増えてきました。主な活動として、「三陸ひとつなぎ自然学校」さんでのボランティア、聞き屋、個人宅訪問、教会訪問等があります。下の3枚の写真は全て三陸ひとつなぎ自然学校、略して「さんつな」さんの所での活動写真です。左の写真は、「さんつなクラブ」と言って定期的に子ども達と雪山や、川、ものづくりをするイベントです。中央の写真は、釜石市内の片岸という海沿い地域の花壇に、花を植える活動です。この地域では、震災によって地域の方々が色々な仮設などに移り住んだために、無くなってしまった交流の機会を花壇作りを通して行っています。右の写真は、根浜海岸と呼ばれる海岸の「松ぼっくりロード」作りです。



える活動です。この地域では、震災によって地域の方々が色々な仮設などに移り住んだために、無くなってしまった交流の機会を花壇作りを通して行っています。右の写真は、根浜海岸と呼ばれる海岸の「松ぼっくりロード」作りです。

大船渡市での活動 大船渡市での活動は現在多岐にわたっています。主な活動として、大船渡市で活動するNPO団体等の連絡会である「大船渡アクションネットワーク」のつながりでのボランティア、聞き屋、個人宅訪問、地域教会での奉仕、祈り会へ出席、地域の勉強会等があります。また月1回程度地元親子との交流も兼ねて保育士のバイトも4月から始めています。

写真左から椿の勉強会の様子です。大船渡の市の花は椿なのですが、その椿で街おこしを考えている団体でお手伝いをさせていただいていました。その次の写真は、わかめ漁のボランティアです。知り合いの漁師さんのつながりで、漁に参加しました。実際に参加してみると、水を含んだわかめはとても重く力仕事という感じでした。漁船にも乗りましたが、揺れに揺れてすぐに酔ってただ寝ていました。聖書の中にイエスが、船で寝ていた場面がありますが、まるでそれでした。その次の写真は、香港パーティの準備の様子です。震災から2年経った今でも、月に2-3のチームや個人が短期ボランティアとして来ています。そのチームと協力してイベントをしたり、個人に被災地を紹介したり、仮設住宅などを訪問することも大事な活動です。一番右の写真は、ラジオの収録の様子です。大船渡市の災害FMラジオの30分番組に少しだけ出させてもらい、私たちの活動や聞き屋について話しました。



このように現在は、今までの物資配布、足湯会、ガレキ掃除などの活動の頻度は減っていて、街づくりや、交流、個人的なお手伝いなどが増えています。

【特集】聞き屋サミットに参加して気付く「僕は一人じゃない」

5月2日から4日まで、福島県の国立磐梯青少年交流の家で「福島未来会議4全国聞き屋サミット」が開催されました。僕は、都合により最終日は参加できませんでしたが、2日間とても楽しい時間を過ごしました。聞き屋とは、主に路上で行う無料の傾聴ボランティアなのですが、今回は釜石・大船渡、福島、東京、埼玉、横浜、山口、沖縄からの聞き屋が集まりました。僕は、釜石や大船渡で時々1人で聞き屋をすることがあります。雪の降る中で聞き屋をしているととても孤独を感じたり、聞き屋を続けることは体力的にも大変なのですが、今回サミットに参加して同じような経験をされている方に会い、「自分は1人じゃない」と実感出来て大変励まされました。これからも、耳の穴を掃除しつつ、聞き屋を続けたいと思います。



JCCMN 宣教師キャンプに参加。1つのチームとして協力関係を再確認



5月4日から6日まで全国のJCCMN(JCMN&CCMN)の宣教師が集まり大津市の大津バプテスト教会でキャンプを行いました。佐賀、石川、岩手と各拠点があ遠いため交流等も中々出来ませんが、今回こうして集り、ビジョンについて語り合ったり、遊んだりして関係を深めることが出来ました。山口の母教会から瀬牧師も駆け付けてくださり、JCCMNの雰囲気を感じていただいて感謝でした。

活動報告	5月2～4日	聞き屋サミット (福島県)	今後の活動予定	6月18～23日	香港チーム受け入れ
	5月4～6日	JCCMN 宣教師キャンプ (大津市)		6月28日	岩手沿岸地域祈り会
	5月7～14日	香港チーム受け入れ		7月中旬頃	台湾チーム、香港チーム受け入れ
	5月11日	高齢者への関わり方講座 (釜石市)		7月中旬頃	海外短期宣教参加 (香港)

祈りの課題

- ・ OK チームメンバーが、新しい仕事やプロジェクトを始めるために、それぞれの活動が増えてきます。1人ひとりが主と共に働き、各場所で神の愛を表せるようにお祈り下さい。
- ・ 7月中旬頃から、海外短期宣教に参加するため香港に行きます。どこに行くかはまだ決定していませんが、遣わされる場所で神の国を広げることが出来るようにお祈り下さい。

瀬 知行 山口県出身 平成元年8月9日生まれ 23歳 国内宣教師&保育士

瀬知行を支える会の住所: 山口県山口市大内長野 633-1

ブログ:「ともだちだよブログ」<http://blog.livedoor.jp/tomotomodati/>

支援献金の方法

私の活動は皆様の支援献金によって支えられております。経済的支援にご協力して下さる方はお手数ですが、以下のいずれかの方法で口座にお振込下さい。

ゆうちょ銀行口座番号: 01350-2-99626 名義: 瀬知行を支える会
他行からの振込 店名(店番) 一三九(イチサンキュウ) (139)
預金種目: 当座 口座番号: 0099626 「瀬知行を支える会」
郵貯振替口座番号: 01350-2-99626 名義「瀬知行を支える会」

髪型変えちゃいました☆



皆さんも、今回のかみおか新聞を読まれて「あれ?」と思われたかと思いますが、そうです! 髪型が変わりました。パーマをかけました。おじさんからは「年頃だからねえ」と言われました。どうぞ、今度会った時に、僕だとわかるように「パーマのとも」と覚えていて下さい。